

琵琶湖の水源を形成する米原市は、「水源の里まいばら元気みらい条例」を制定し、水の流れの上流に位置するまちがもつ、文化的な魅力や価値を多くの人々と共有しながら互いの命と暮らしを支え合う、上流と下流の社会関係づくりに取り組んでいます。

この取り組みのモデルとなった姉川上流の東草野地域（甲津原、曲谷、甲賀、吉槻）は、山々に囲まれ、冬季には数メートルにも及ぶ積雪に耐えながら、人々は豊かな自然と対峙する暮らしの中で独自の文化を培ってきた、まさに「水源の里」を象徴する地域です。

昨年10月1日から米原市景観計画が施行され、地形、水系等の自然的要素と景観が成立してきた歴史的要素を踏まえ、伊吹山を意識しながらも、それぞれの景観特性に応じた取り組みを始めました。

そして、平成25年度末、この東草野地域の景観が「東草野の山村景観」として、国の重要文化的景観に選定されます。滋賀県内における選定は、4か所目（全国39か所目）です。

水辺を育む の景観

「山村景観」選定記念フォーラム

16時30分 東草野小中学校体育館
(吉槻656番地)

交通手段

シャトルバス1 /
近江長岡駅 12:15発→会場

シャトルバス2 /
甲津原12:25→曲谷12:35→甲賀12:40→会場

13時～13時40分

映像上映「雪のなかの暮らし」
—昭和40年の甲津原—

報告「東草野の山村景観について」

- ・選定の概要
- ・景観条例の概要

13時50分～14時50分

基調講演「水辺を育む水源の暮らし」
—滋賀県の文化的景観—

講師／安土城考古博物館
副館長 大沼 芳幸氏

15時～16時30分

映像上映「水源の里まいばら」
パネルディスカッション
・テーマ「未来へ息づく山村景観」
—水源の里の未来を考える—

・コーディネーター
鈴木 地平氏（文化庁記念物課技官）

・パネラー
大沼 芳幸氏（安土城考古博物館副館長）
法雲 俊邑氏（東草野まちづくり懇話会座
長）

押谷 茂敏氏（水源の里まいばら
元気みらい条例推進委員会会長）

桑田 潔氏（毎日新聞社記者）

県内ではこれまでに、「近江八幡の水郷」、「高島市海津・西浜・知内の水辺景観」、「高島市針江・霜降の水辺景観」といった、琵琶湖と共に生きる人々の暮らしの営みにより育まれた文化的景観のすばらしさが高く評価されてきました。

今回、「東草野の山村景観」の選定は、この琵琶湖を育む水源の里の風土と人々の暮らしに宿る特徴ある文化の重要性を認めるものです。

重要文化的景観選定を記念しフォーラムを開催します。フォーラムでは、これら県内4つの選定地域をつなぎ、琵琶湖とこれを取り巻く山々とのかけがえのない関係や、人々の暮らしに思いを馳せながら、湖国を形成する文化的景観の重要性を考えるとともに、「東草野の山村景観」の選定の意義を理解し「水源の里」の未来への可能性について創造を深めます。

お問い合わせ

●教育委員会

歴史文化財保護課 (ルッチプラザ)

TEL 0749-22-4100 FAX 0749-22-4100

●政策調整課

水源の里振興担当 (伊吹庁舎)

TEL 0749-22-1100 FAX 0749-22-1100

現地見学会同日開催

コース1

東草野の民家とくらしを訪ねて
10時～12時

- 甲津原の民家、甲賀の nohohon-tanacafe、吉槻のイケなどの見学 (甲津原⇒甲賀⇒吉槻)

※申込は歴史文化財保護課まで。

定員
約50人

コース2

水の流れを巡る旅
9時～12時

- 東草野地域で生まれた水が、どのように流れ、活用されているのか、小冊子を手がかりに、水の流れを追いながら紹介。(東草野地域⇒下流地域)

※申込は水源の里振興担当まで。

定員
約50人

※コース1、コース2にご参加の方は、見学会終了後、東草野の食文化を体感する“東草野のごっつおバイキング”にご参加いただきます。(無料)

琵琶湖の 水源の

重要文化的景観「東草野の

3月21日(金・祝) 13時～1

企画展示

「琵琶湖の水辺を育む水源の景観」

3月21日(金・祝)～4月20日(日)

第1会場 近江はにわ館 地域情報室
「水辺の文化的景観
—高島・八幡・菅浦—」

第2会場 伊吹山文化資料館 企画展示室
「水辺を育む東草野の文化的景観」